

## 高等学校家庭科教員を支援する教育情報サイトの開発

## The Development of Educational Information Site for Supporting High School Home Economics Teachers

山 本 亜 美\* 永 田 智 子\*\*  
YAMAMOTO Ami NAGATA Tomoko

本研究の目的は、効率よく最新の情報を共有するための一つの方法として、高等学校家庭科教員のための教育情報サイトを開発し、その有効性について検討することである。開発にあたり、兵庫県高等学校家庭科教員を対象に、コンピュータやインターネットの利用状況と家庭科の教育情報サイトのニーズについての調査を実施した。調査結果より、普段からコンピュータやインターネットは利用しているものの、それらに対し不安を抱いていることがわかった。そのため、コンピュータ操作の熟練度に関わらず利用・管理ができるように、CMSを用いたサイトの開発を行った。公開後に行った評価に関する質問紙調査では、サイトの有用性の高さが示唆された。その一方で、教材の投稿に関しては、消極的な意見が多かったことから、それらに関する不安を取り除く方法や管理・運営についての対策が必要であることが示唆された。

キーワード：高校、家庭科、学習指導情報、情報共有、教育情報サイト

## 1. 研究の背景と目的

高等学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省2010）では、「生活するために必要な衣食住、家族、保育、消費、環境などの知識と技術を実践的・体験的な学習を通して習得させること」を高等学校家庭科の目標としている。ここから、家庭科で学習する分野は衣食住のみならず、家族や保育、消費・環境など広範囲にわたることがわかる。また、これらは社会の変化に伴い、内容も変化し続けている。そのため、家庭科教員は、広範囲かつ変化し続ける学習内容に関する新しい情報が常に必要であり、それらを効果的に指導する能力が求められている。

家庭科教員の現状として、野中ら（2012）が全国21都道府県立全日制普通科高等学校の家庭科主任を対象に行った調査では、家庭科教員の減少や時間数の減少が課題としてあげられていた。平成15年より2単位の必修履修科目である「家庭基礎」が登場したことにより、単位数が減少されたが、学習内容は削減されていない。そのため、学習指導要領の目標にあるような実践的・体験的な学習活動の充実は、困難な状況である。しかしそのような状況の中で、家庭科教員数は減少し、特に、普通科が設置されている高等学校では家庭科教員は1人しか配属されていない場合も多く、相談をしたいと思ってもすぐに相談できない状況である。

このような家庭科教員の現状を解決するための一つの方策として、ICT（Information and Communication Technology）を活用した教員支援が考えられる。田中ら（2000）や、奥谷（2012）においても、ウェブサイトを活用した教員支援の有用性が示されている。「教育の情報化に関する手引き」（文部科学省2010）では、教員一人1台のパソコンの支給やグループウェア等の校内LAN（Local Area Network）を用い情報共有をするなど、ICTを活用することで業務の軽減と効率化や教育の質の

向上に有効であることが示されている。また、「平成26年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」（文部科学省2015）において、教員の校務用コンピュータ整備率は全国平均で113.8%であることが示唆された。全国的に半数以上の学校において、教員一人1台のコンピュータに加え、成績処理用の共用コンピュータも整備されている。30Mbps以上の超高速インターネット接続率についても、全国平均で81.6%と、教育の情報化に向けた整備が進められている。

以上のことから本研究では、効率よく最新の情報を共有するための一つの方法として、高等学校家庭科教員のための教育情報サイトを開発し、その有効性について検討することとした。

## 2. 家庭科教員のニーズ調査

教育情報サイトの開発にあたり、家庭科教員のコンピュータやインターネットの利用状況と家庭科の教育情報サイトのニーズを明らかにするために、兵庫県高等学校家庭科教員を対象とした質問紙調査を行った。

### 2.1 調査内容

調査概要については、表1の通りである。調査内容については、家庭科教員の状況とニーズを把握するため、①調査対象の回答者に関する項目、②コンピュータ・インターネットの利用状況に関する項目、③「家庭科」の指導上必要な情報に関する項目の3項目を設けた。また、家庭科教員の情報通信ネットワークの利用傾向を詳細に把握し、教育情報サイトの形式を検討するため、「一般サイト」、「投稿サイト」、「SNS」、「掲示板サイト」の4種類のサイトに関する項目を設けた。

表1 質問紙調査概要

調査時期	2013年7月中旬～8月下旬
調査対象	兵庫県内の高等学校家庭科教員
調査方法	郵送による質問紙調査
配布数	約560枚(226校)

## 2.2 結果及び考察

質問紙の回収数は166枚である。すべての項目について単純集計を行った。

## ①回答者に関する項目

回答者の任用形態について、「教諭」と答えた人が70% (116人) と最も多く、常勤講師、非常勤講師、実習助手という順であった(表2)。これは、夏季休業の直前に送付したため、非常勤講師に質問紙調査用紙が届くことが難しかったためだと思われる。それでも、講師(常勤講師、非常勤講師)の割合は全体の約4分の1であり、家庭科の教員数から見ると、講師の割合は多いように思われる。

表2 任用形態について(N=166)

回 答	度数	比率
教諭	116	70%
常勤講師	22	13%
非常勤講師	20	12%
実習助手	6	4%
未記入	2	1%

回答者の勤務する高等学校における、家庭科の担当者数については、「2人」と答えた人が26% (43人) と最も多い結果となった(表3)。先行研究においても、野中ら(2012)の調査により、ほとんどの学校において2人以下で家庭科を担当している状況が課題としてあげられていたため、兵庫県の家庭科教員の配置状況についても同じような状況であることがうかがえる。

表3 家庭科担当者数について(N=166)

回 答	度数	比率	回 答	度数	比率
1人	27	16%	6人	7	4%
2人	43	26%	7人	5	3%
3人	33	20%	8人	9	6%
4人	22	13%	9人	2	1%
5人	11	7%	未記入	7	4%

## ②コンピュータ・インターネットの利用状況に関する項目

コンピュータの利用状況について、「資料・文書作成をする」と答えた人が96% (160人)、次いで、「インターネットを使う」と答えた人が80% (132人) と多かった。コンピュータをほとんど使わないと回答した人が全体の

4% (6人) と少なく、全体的に校務においては、コンピュータを利用していることがうかがえる(表4)。

表4 コンピュータの利用状況について

(複数回答、N=166)

回 答	度数	比率
資料・文書作成をする	160	96%
インターネットを使う	132	80%
電子メールを使用する	84	51%
コンピュータを使って授業を進める	53	32%
コンピュータの使い方について授業で指導する	18	11%
コンピュータはほとんど使わない	6	4%
その他	5	3%

また、インターネットを利用するときの端末としては、「パソコン」と答えた人が98% (163人) と最も多かった(表5)。その理由として、平成26年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(文部科学省2015)において、教員の校務用コンピュータ整備率は兵庫県では115.8%であり、また、超高速インターネット接続率についても91.6%と平均値の81.6%を上回っている。そのため、一人1台のコンピュータが支給されている学校も増えてきており、いつでも自由にコンピュータやインターネットが使える環境にあると考えられる。

表5 インターネット利用時の端末について

(複数回答、N=166)

回 答	度数	比率
パソコン	163	98%
スマートフォン	58	35%
携帯電話	32	12%
タブレット端末	20	19%
ゲーム機器	1	1%
テレビ	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%

ウェブページの利用状況について、掲示板サイトの閲覧73% (122人)、投稿サイト86% (142人) と、それぞれの「閲覧をする」と答えた人が過半数を超えていたが、ウェブページの作成や掲示板サイトでの質問、記事の投稿等、自ら情報を発信することについての項目の回答者は、いずれも少数であった(表6)。特に、SNSについては、「アカウントを所持している」と答えた人は、28% (46人) に対し、「わからない」と答えた人が52% (86人) と最も多かった。回答者の年齢層が比較的高く、SNS に対して関心がないためか、SNS に関しては消極的な回答が多く見受けられた。また、掲示板サイトや投稿サイトについても「閲覧する」と答えた人は過半数を

表6 ウェブページの利用状況について(複数回答、N=166)

掲示板サイト			SNS		
回 答	度数	比率	回 答	度数	比率
閲覧する	122	73%	わからない	86	52%
掲示板サイトは知っているが、利用していない	32	19%	アカウントを所持している	46	28%
わからない	10	6%	閲覧する	44	27%
質問する	5	3%	つぶやき、近況などを投稿する	19	11%
他者の質問に答える	1	1%	SNS は知っているが、利用していない	17	10%

超えていたものの、自ら情報を投稿したり、質問したりするなどの積極的な利用は少なかった。このことから、閲覧はしていても、自ら情報発信することは少ないため、ウェブページを使っても情報交換はあまり積極的にされていないように思われる。

### ③「家庭科」の指導上必要な情報に関する項目

「家庭科」を指導する上で欲しいと思う情報については、「教材・教具、資料」と答えた人が83%（138人）と最も多く、次いで「指導内容」と回答した人が53%（88人）、「指導方法」と回答した人が47%（78人）であった（表7）。

表7 「家庭科」の指導上、欲しい情報について  
（複数回答、N=166）

回 答	度数	比率
教材・教具、資料	138	83%
指導内容	88	53%
指導方法	78	47%
施設・設備、予算	61	37%
評価	42	25%
授業時間数	26	16%
その他	4	2%
なし	2	1%

「家庭科」の情報が欲しい時の情報の収集方法について、「インターネットで検索する」と答えた人が85%（141人）と最も多く、「同じ学校の同僚などに直接会って聞く」と回答した人が64%（106人）、「研修会や研究会などで情報収集する」と回答した人が61%（101人）であった（表8）。

家庭科教員のコンピュータやインターネットの利用状況については、各教員が個人で利用できるコンピュータが整備されていることもあり、教材研究や業務において利用している人は多く、家庭科の情報サイトに関しても

必要性を感じている人は多かった。

また、情報収集においては、家庭科担当教員が複数いた場合、他校の知り合いに聞くことよりも、同じ学校の同僚などに直接会って聞くことが多いが、それらの回答よりもインターネットで検索するとの回答が多かった。以上のことから、必要な情報がまとまって掲載されている教育情報サイトがあれば活用してもらえるのではないかと推察された。

ただし、SNS や掲示板サイトの利用が極端に少ないこと、コンピュータを使った授業や使い方についての授業をすることが少ないこともあり、コンピュータが得意ではない教員が多いと考えられる。また、自由記述においても、ウェブページに掲載されている情報に関する不安やサイトを管理することへの不安、見えない相手とのやりとりに関する不安等、インターネットやコンピュータを使うことへの不安を感じている教員が多いことがわかった。以上のことから、教育情報サイトを開発するにあたって不安を取り除く工夫が必要であろう。

### ④教育情報サイトに関する項目

教育情報サイトの形式を検討するため、「A 資料集や指導案、授業に役立ちそうなページ情報を閲覧・ダウンロードできる一般サイト」（一般サイト）、「B 資料集や指導案、授業に役立ちそうなページ情報を閲覧・投稿・ダウンロードできる投稿サイト」（投稿サイト）、「C 情報共有・交換ができる SNS」（SNS）、「D 情報共有・交換ができる掲示板サイト」（掲示板サイト）の4種類のサイトを例としてあげた（表9）。

一般サイト、投稿サイトについて、「有用だと思う」と答えた人は一般サイトが76%（126人）、投稿サイトも90%（149人）、「閲覧したいと思う」と答えた人は一般サイトが93%（154人）、投稿サイトは83%（138人）と多かった（表10、11）。想定しやすいサイトのため、こ

表8 「家庭科」の情報が欲しい時の情報の収集方法について（複数回答、N=166）

回 答	度数	比率
インターネットで検索する	141	85%
同じ学校の同僚などに直接会って聞く	106	64%
研修会や研究会などで情報収集する	101	61%
図書館等で必要な文献資料を探す	73	44%
別の学校の知り合いに直接会って聞く	60	36%
近くに相談相手がいない場合は、電子メール・電話などを使って聞く	35	21%
インターネットの掲示板サイトを利用し、相談する	9	5%
その他	4	2%
SNS を利用し、相談する	3	2%

表9 家庭科教育情報サイトの形式

A	「資料集や指導案、授業に役立ちそうなページ情報を閲覧・ダウンロードできるサイト」 例：各教科書会社や各教育委員会など、各団体により提供される一般的なサイト
B	「資料集や指導案、授業に役立ちそうなページ情報を閲覧・投稿・ダウンロードできるサイト」 例：YouTube やウィキペディア、クックパッドなど、個人が自由に投稿・閲覧できるサイト
C	「情報共有・交換ができる SNS」 例：mixi や facebook などのサイト
D	「情報共有・交換ができる掲示板サイト」 例：Yahoo!知恵袋、Yahoo!掲示板、2ちゃんねるなどの掲示板サイト



のような結果になったと考えられる。情報提供については、一般サイトは「条件次第なら」と答えた人は63% (104人)であったが、投稿サイトでは、「思わない」と答えた人が49% (82人)と多かった(表12)。

SNSについては、閲覧、情報提供についても、「思わない」と回答した人が多かった(表11、12)。インターネットの利用状況に関する質問でもSNSを利用していない、わからないと答えた人が多かったため、このような結果が出たと思われる。

掲示板サイトでは、SNSと比べると、有用性や閲覧についても「思う」と回答した人は多かったが、情報提供については、「思わない」と答えた人が、74% (123人)と最も多かった(表10、11、12)。その理由として、「いたずら目的な人もいて、信用できない情報も多いと思うから」、「不特定多数の人が見ることが不信、間違った情報かも」など、サイトや情報に関する信用性について疑問を持つ声が多かった。

### 3. 家庭科教員を支援する教育情報サイトの開発

ニーズ調査の結果において、情報通信機器を使うことに不安に感じている教員が多かった。そのため、ウェブサイト作成に関する知識がなくても管理ができるようにするため、CMS (Content Management System) の一つである「NetCommons」を採用した。調査では、サイト形式については、教材や授業実践などが自由に閲覧・ダウンロードできる一般的なサイトが求められていることが明らかになったが、提供できる情報がすぐでないことや、情報やサイトを管理する担当者が必要なことから、運営が難しいことが考えられる。そのため、教材や授業実践などの情報を各自で投稿できるページを含めたサイトを開発のコンセプトとした。なお、サイトの信用性を高めるため、サーバの管理を兵庫県教育研修所に委託し、



図1 「みんなの家庭科」トップページ

兵庫県の家庭科教員が所属する家庭部会の公式サイトとして開発した。

サイトタイトルは、公式なサイトであることをアピールし、また、みんなで自由に閲覧・投稿できるように「兵庫県高等学校教育研究会家庭部会 みんなの家庭科」(図1)とした。

サイトの詳しい利用方法については、会員全員が閲覧できるようサイト上にマニュアルを公開している。特に、教材の投稿方法やログイン方法、記事の投稿、記事の編集、削除について簡単にまとめたマニュアル(クイックガイド 図2)を作り、全会員に配布した。

#### 3.1 閲覧の範囲

サイト構成は、教材や授業実践の投稿ページと家庭部会に関する報告や連絡を行うページ(「みんなの教材・

表10 教育情報サイトが有用だと思うか (N=166)

回 答	一般サイト		投稿サイト		SNS		掲示板	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
思う	126	76%	149	90%	47	28%	52	31%
思わない	17	10%	3	2%	58	35%	53	32%
わからない	22	13%	13	8%	60	36%	59	36%
未記入	1	1%	1	0%	1	1%	2	1%

表11 教育情報サイトを閲覧したいと思うか (N=166)

回 答	一般サイト		投稿サイト		SNS		掲示板	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
思う	126	76%	138	83%	43	26%	64	39%
思わない	17	10%	8	5%	79	48%	54	33%
わからない	22	13%	18	11%	40	24%	44	26%
未記入	1	1%	2	1%	4	2%	4	2%

表12 教育情報サイトに情報提供したいと思うか (N=166)

回 答	一般サイト		投稿サイト		SNS		掲示板	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
思う	16	10%	8	5%	4	2%	3	2%
条件次第なら	104	63%	75	45%	37	22%	29	17%
思わない	45	27%	82	49%	119	72%	123	74%
未記入	1	0%	1	1%	6	4%	11	7%

# みんなの家庭科

## 家庭部会会員のための かんたん操作マニュアル

### ウィックガイド



### 1 ログイン方法

★ログイン★

ログインID  
自分のログインID

パスワード  
●●●●●●

ログイン

パスワード再発行

パスワードを忘れた場合はここをクリックし、再発行してください！

### 2 記事の投稿

MENU LIST

みんなの家庭科

- ▶ サイト利用について
- ▶ 家庭部会事務局
- ▶ 家庭科教育研究委員会
- ▶ 家庭に関する学術研究委員会
- ▶ 家庭クラブ推進委員会
- ▶ 家庭クラブ
- ▶ 学校家庭クラブ
- ▶ 家庭科技術検定
- ▶ みんなの教材・授業実践

このページへの投稿ができます。

### 3 記事の編集・削除

◆教材・授業実践の投稿

みんなの教材・授業実践

記事を書く

投稿したいページを選択し、「決定」ボタンをクリック。

管理者へ承認メールが自動送信されます。  
※承認後ネット上に公開されます。

### 4 記事の投稿

◆教材・授業実践の投稿

みんなの教材・授業実践

記事を書く

投稿したいページを選択し、「決定」ボタンをクリック。

管理者へ承認メールが自動送信されます。  
※承認後ネット上に公開されます。

### 5 記事の投稿

◆教材・授業実践の投稿

みんなの教材・授業実践

記事を書く

投稿したいページを選択し、「決定」ボタンをクリック。

管理者へ承認メールが自動送信されます。  
※承認後ネット上に公開されます。

### 6 記事の投稿

◆教材・授業実践の投稿

みんなの教材・授業実践

記事を書く

投稿したいページを選択し、「決定」ボタンをクリック。

管理者へ承認メールが自動送信されます。  
※承認後ネット上に公開されます。

図2 クイックガイド

授業実践」を作成した。閲覧範囲は、家庭部会員のみが閲覧できるサイトとしたため、トップページのみ、制限なく閲覧が可能なページとした。その他のページはすべてログインをしないと見ることができないように非公開のページとした。そのため、全会員に対し、アカウントの発行を行い、郵送にて送付した。

### 3.2 利用者権限

利用者権限は、家庭部会の会長・事務局長は「管理者」、役員は「主担」、会員は「一般」のように家庭部会の役割ごとにアカウントを作成した。「管理者」は、システムの最高責任者であるため、会員用のアカウント作成、トップページデザイン等のすべての作業が可能である。「主担」は、各委員会等のページの主担当者用に発行したアカウントである。それぞれの委員会の長が担当者となり、委員会ページの記事の投稿が可能である。「一般」は、すべての家庭部会会員が全ページの閲覧、「みんなの教材・授業実践」への記事の投稿ができる。

### 3.3 教材投稿ページへの投稿と承認

教材や授業実践等を共有することを目的とし、「みんなの教材・授業実践」のページを設けた。このページはアカウントを有する会員のみが自由に閲覧・投稿することが可能である。教材等の投稿があった場合、すぐに全体に公開されないようにしている。管理者によって記事の内容を確認後、承認され、公開される。

## 4. 教育情報サイトの評価と改善

### 4.1 教育情報サイトの評価に関する質問紙調査

家庭部会員293名を対象に、有用性や使用感を調査するため、郵送による質問紙調査を行った。調査概要は表13の通りである。回答の際には、サイトへのログインを必須事項とした。主に、①サイト全般について、②投稿ページについて、③サイトの信用性についての3項目について問うた。

表13 調査概要

調査時期	2015年6月中旬～7月下旬
調査対象	家庭部会に所属する高等学校家庭科教員
調査方法	質問紙調査
配布数	293枚(153校)

回答率は、88枚(30%)である。サイト全般について有用だと思うかという質問に対し、「そう思う」「少しそう思う」と回答した人は89%(78人)と概ね公式サイトに対し有用性を感じていることが示唆された(表14)。また、家庭部会員のみが閲覧できることについて信用性を感じるかという質問に対し、「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答した人が91%(80人)だったことから、閲覧制限を設けることで家庭科教員はサイトに信用性があると感じていることが示唆された(表15)。しかし、サイト内にある教材等の投稿ページについては、有用性は感じながらも、教材の投稿をしたいかという質問に対しては、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と

回答した人が51%(45人)であった(表16)。自由記述においても、「教材の投稿が増えたらいいと思う」のような消極的な意見が多く、自ら投稿をしたいと回答する人は少ない結果となった。

以上のことから、家庭部会の公式サイト全般としては、家庭科教員にとって開発したサイトの信用性は高いと考えられる。また、公立の機関にサーバを設置し、大学がサポートし、閲覧を制限することで、サイトの信用性が高まったといえる。しかし、教材投稿ページについては、閲覧はしたいと思っているものの、投稿に関しては消極的な傾向が伺える。サイトを持続可能にするため、家庭科教員の教材の投稿を促す方策の検討が必要である。

表14 サイトは有用だと思うか(N=88)

回 答	度数	比率
とてもそう思う	40	46%
少しそう思う	38	43%
あまりそう思わない	10	11%
全くそう思わない	0	0%
未記入	0	0%

表15 会員のみの閲覧の信用性について(N=88)

回 答	度数	比率
とてもそう思う	42	48%
少しそう思う	38	43%
あまりそう思わない	6	7%
全くそう思わない	0	0%
未記入	2	2%

表16 教材を投稿したいと思うか(N=88)

回 答	度数	比率
とてもそう思う	9	10%
少しそう思う	34	39%
あまりそう思わない	39	44%
全くそう思わない	6	7%
未記入	0	0%

### 4.2 継続可能な活用・運営方法の検討

今後も継続してサイト運営ができることを目指し、改善策を検討した。

第一に、教材の投稿数を含め、サイト全体のコンテンツを増やす方法についてである。教材投稿ページへの投稿は未承認のものを含めても約30件しか投稿されていない(2016年2月現在)。教材・授業実践の投稿に消極的な理由として考えられるものとして、忙しい・面倒といった多忙という要因があげられる。日頃の業務が多忙であり、新たに導入された今回のサイトを活用するには時間を要するのではないだろうか。委員会のページにおいても、活動報告等がされているページもあるが、なにも投稿がされていないページの割合の方が多い。継続して運営を続けるためにも、サイト内の情報の充実が重要となることが推測される。そのため、教材の投稿を促す方策を検討し、家庭科教員にとってサイトを活用することが仕事の簡素化につながることを伝え、サイト利用を広めていきたい。

第二に、教材投稿ページの承認方法についてである。



改善前の方法では、年に数回行われる委員会時において、メンバー全員の確認を得ることが必要条件とされていた。しかし、遠方から集まることもあり時間と場所には限りがあること、投稿が増えてきた場合、公開までに時間がかかること等が課題であった。そこで、委員会のメンバーのみが閲覧することができる非公開ページを作り、ページ内で承認の有無を確認できるようにした。具体的には、各投稿に対し、「引用元の記載」「写真の加工」、「個人情報」、「キャラクター」、「製作者等に許可」の5項目に関する項目を設け、承認できる項目についてチェックをするというものである。これはアンケート形式になっており、集計が簡単にできるようになっている（図3、4）。この項目は承認をする際にも使用し、一つでも当てはまらない投稿については「未承認」となるため、再度、投稿者に対し編集を求めるようにした。

## 5. まとめと今後の課題


以上、本研究では、高等学校家庭科教員のニーズと実態を把握した上で、効率よく最新の情報を共有するための一つの方法として、教育情報サイトを開発した。

教材投稿ページの有用性の高さを伺うことはできたが、教材や授業実践の投稿数が伸びなかったことが現状である。日頃の業務が多忙な中、インターネットを使うことに不安を感じている教員も多いため、家庭部会としてサ

イトを活用した取り組みに関する研修等が今後の課題である。


## 参考文献

- ・文部科学省（2010）「高等学校学習指導要領解説 家庭編」
- ・野中美津枝、荒井紀子、鎌田浩子、亀井祐子、川邊淳子、川村めぐみ、齊藤美保子、新山みつ枝、鈴木真由子、長澤由喜子、中西雪夫、綿引伴子（2012）「高等学校家庭科の単位数をめぐる現状と課題－21都道府県の家庭科教員調査を通して－」日本家庭科教育学会誌 54(4), pp.226-235
- ・田中洋子、佐々木貴子、貴田康乃（2000）「家庭科教育における教育と研究とのネットワーク形成に関する基礎調査（第1報）：兵庫県家庭科教員にもつ悩みと研究者への期待を中心として」日本家庭科教育学会誌 第43巻第1号, pp.3-39
- ・奥谷めぐみ（2012）「消費者教育関連ウェブサイトによる教育支援の在り方」消費者教育 vol.32, pp.81-90
- ・文部科学省（2010）「教育の情報化に関する手引き」 pp.2, pp.145 <<http://www.cec.or.jp/seisaku/pdf/tebiki/H22tebiki.pdf>> 最終アクセス日2015/12
- ・文部科学省（2015）「平成26年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果[速報値]（平成27年




### 投稿前にチェック！

- ☐ 生徒の作品を投稿する時には、制作者である**生徒の了承**を得る。
- ☐ 授業や活動の様子を投稿する時には、写っている**生徒の了承**を得る。
- ☐ 個人が特定できるような写真は、**モザイク処理やトリミングなどの加工**をする。
- ☐ 生徒氏名や評価簿などの**個人情報**が記載されていないか確認する。
- ☐ **引用元**を記載する。
- ☐ 動画を投稿する場合は、**動画の制作者・出演者等**に了承を得る。



### 投稿する時について

- ① 「記事を書く」をクリックする
- ② 必須事項の入力をする
  - ☐ タイトル
  - ☐ 学校名
  - ☐ 本文
  - ☐ カテゴリー選択
- ③ 画像などの添付ファイルがあれば、ツールバーより選択する
- ④ 決定ボタンをクリックする

管理者より「**承認**」された後、ウェブ上に公開されます。そのため、公開されるまでに時間がかかることがあります。




図3 投稿用チェックリスト

**みんなの教材・授業実践の承認**

### 8月分承認記事について

**質問1:**  
「2015/08/17 ふれあい育児体験 ○○○高校  
☐ 引用元の記載   ☐ 写真の加工   ☐ 個人情報   ☐ キャラクター   ☐ 製作者等に許可

回答する

図4 アンケートを使った承認作業(例)

3月現在)」<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2015/08/31/1361388\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/__icsFiles/afieldfile/2015/08/31/1361388_01.pdf)> 最終アクセス日2015/12